

news

動脈硬化を抑制

メタボリックシンドローム対応素材「Grisodin」(メロングリソジン)

仏インゼルス社フランソワ・ウィックス社長に聞く



—Grisodin(メロングリソジン)の特徴を教えてください。

ウィックス 90年代にパリ大学付属病院で免疫やSODの研究が進められていた頃、BSEの問題により動物由来のSODが使えなくなり、植物由来のものが求められるようになりました。動物由来のSODは注射で投与していたのですが、植物由来のSODは精製が難しく、経口で摂らざるを得なくなりました。しかし、SODは酵素の安定性が悪く、経口では消化されてしまい、また、胃を通っても分子量が大きく腸で吸収されないとい

う問題がありました。試行錯誤の末、「グリアジン」という小麦抽出物でコーティングするとこれらの問題を解消することがわかりました。植物由来SODの原料も偶然見つかったものです。ヴォークルシアン種は出荷調整のため日持ちがするメロンですが、SODの含有量が非常に高いことが判明しました。このメロンはし好の点で

人気がなく、ほかの利用方法を探していました。SOD含有の高いメロンとグリアジンの機能という二つの発見により、これらを組み合わせさせた「Grisodin」(メロングリソジン)となりました。経口でSOD活性を上げる画期的な食品であるメロングリソジンは、欧米、日本を中心に25カ国で扱われています。日本では、ニユートリション・アクト(東京都港区、03-5475-7313)が総代理店になっています。

—ターゲット層は？

ウィックス 主なターゲットは、インナーコスメ、ア

ンチエイジング、スポーツ(疲労回復)、メタボリックシンドローム(酸化ストレスの処置)です。欧米では、美容系の医師からのコンタクトが急増しており、大きな市場になってきました。

メタボリックシンドローム向けのメロングリソジンのコンセプトは、酸化ストレスによる血管の炎症を抑えることであり、このために必須のものとしていきたく考えています。

—メタボリックシンドロームによる動脈硬化の進展を抑制させるということですが、

ウィックス 私たちはパリ大学付属病院で3年に渡り試験を行いました。1年目は76人の患者に食事療法だけを実施しました。コレステロール値など指標では、数値の改善が見られましたが、血管

の炎症の抑制には効果が認められませんでした。2-3年目はメロングリソジンの摂取により動脈硬化抑制効果が見られ、生体のSOD、GPPX(グルタチオンペルオキシダーゼ)の活性を引き上げることが確認されました。酸化ストレスは血管の病変を進める大きなファクターというわけですが、この結果、メタボリックシンドローム対策は、脂肪のコントロールだけでは不十分だということがわかります。メロングリソジンのコンセプトはダイエットではなく、酸化ストレスを抑え、心疾患を防ぐことなのです。

—動脈の内壁を薄くするということですが、

ウィックス メロングリソジン摂取後1年目より、動脈の内壁が厚くなるのを止めるだけでなく、薄くするという結果が得られました。米国の心臓財団(American Heart Association AHA)は動脈内壁の厚さ(IMT)の計測評価が最も信頼性のある動脈硬化の早期診断評価法として採用していますので、この結果は非常に重要な成果と考えております。

私たちの企業の姿勢ですが、科学的なデータを取って、効果を確認、検証してから進めていく。こういう方法は時間がかかりますが、より品質の高いものを提供できるといっわけです。